



この地に芽吹く、
新たな可能性。

地域課題に向き合いながら、自分自身の可能性を広げる地域おこし協力隊。彼らの活動が一步步実を結び、地域とともに成長していく姿は、多くの人々に希望を与えています。

地域に新たな価値を生み出す活動が、これからどのような形で芽吹いていくのか、大いに期待されます。

今後も地域おこし協力隊の挑戦は続きます。その姿勢と熱意が地域をより豊かにし、新たな可能性を切り拓くことでしょう。



放課後塾ハル × 地域おこし協力隊 イベント

「クニミノホマレ」

放課後塾ハルの塾生（中学生）のアイデアを商品化した新名物の販売や、地域おこし隊員の今年度の活動報告会を実施します。

日時 3月9日(日) 午前10時から午後3時

会場 道の駅国見あつかしの郷

内容 ①放課後塾ハルの塾生が1年をとおして、国見町の新しい名物として考案した商品の販売会
②地域おこし協力隊がこの1年間の活動を発表
③町自慢の飲食物の販売会

【クニミノホマレに関すること】

国見町公営塾「放課後塾ハル」

☎ 050-5482-3340 MAIL kunimi_halu@foundingbase.jp

【地域おこし協力隊の報告会に関すること】

国見町企画調整課総合政策係

☎ 585-2217



- 1_町で採れた植物を蒸留してアロマオイルを抽出中
- 2_蒸留水とりんごシロップと炭酸水を使って香り高いドリンクを試作
- 3_「AISTI(アイスティ)」という屋号で活動するお二人のロゴが入った試作品のアロマオイル



大友瑞希さん

宮城県仙台市出身。アパレル店員、カフェの副店長の経験を経て、令和6年4月より地域おこし協力隊として活動。「香り×食」をテーマに新しい商品を開発中。

齋藤友希さん

福島県福島市出身。旅行会社勤務を経て、カフェ&シェアハウスを開業。令和6年4月より地域おこし協力隊の地域ブランド開発部門で活動しながら、イベントプロデュースを手掛ける。

No. 07 /

地域ブランド開発部門

さいとう ゆうき おおとも みずき
齋藤 友希さん、大友 瑞希さん

その後、カフェの経営から離れるタイミングで、地域ブランド開発部門の地域おこし協力隊の募集を知った二人は、これまでの経験や知識を活かせるのではないかと思い、応募をした。国見町は豊かな自然と食文化に恵まれ、生活の質が高く、「丁寧な暮らし」のイメージがあると話す二人。この「丁寧な暮らし」を五感で感じられるものと捉え、その中でも「嗅覚」、つまり「香り」に注目した。町内の植物を活用して「香り」がテーマの商品開発を考えている。

大学卒業後、旅行会社で営業やイベント企画、添乗員業務など多岐にわたる経験を積んだのち、福島市でカフェ&シェアハウスを開業した齋藤さん。一方、アパレル店員として勤務していた大友さんは、接客で培ったコミュニケーション能力を活かし、齋藤さんが経営するカフェの副店長として、メニュー開発から調理まで担当していた。カフェ経営を通じて、「お店づくりはまちづくりそのもの」という考えに至った二人は、藤田駅前のみちづくりに興味を持ち、町が主催する「エリアデザインラボ」に参加。このイベントをきっかけに地域活性化への関心を深めていった。



香りの特徴を嗅ぎわけながら、理想の香りを試作中

齋藤さんは、町内で採れる植物を蒸留し、香りを抽出してオリジナルのアロマオイルを作り、それを基にハンドソープなどのアメニティを開発中。日常生活の中で国見町の香りを楽しめる商品を提供したいと意気込んでいる。大友さんは、蒸留過程で得られる香り付きの蒸留水を活用した食品の開発を模索しており、国見町産の素材を使った新しい切り口での商品開発を進めている。

「香り」で表現、新たな魅力

Future: ミライのハナシ —私がこの町でやりたいこと—



開発した商品の販売やワークショップを開催できる活動拠点をもちたい

地域おこし協力隊の任期終了後も国見町で活動するために、小さくてもいいので拠点を作りたと思っています。



▲活動内容はコチラ